

令和3年度特定鳥獣保護管理検討会（第3回）

日時：令和4年2月22日（火）午後2時から

場所：オンライン開催

（1）第二種特定鳥獣管理計画（2022年度～）の策定について

（委員）

- ・短い期間での被害の増減を議論するのではなく、より長期的な視点で明確な目標を具体的に打ち出す必要がある。
- ・市街地出沒に備えて対応方針を検討しないといけない。

（事務局）

- ・最終的な目標はすぐには決めかねる。ニホンジカやイノシシの個体数は長期的には増加傾向にあるので、当面の間は個体数を減らすために捕獲を強化し、今後個体数をある程度減らした後に、適正な個体数水準を検討することとしたい。

（委員）

- ・鳥獣との適正な関係について、どういうイメージを想定しているのか。

（事務局）

- ・適正な個体数に抑えつつ、防衛ラインを決め、市街地への出沒を防ぐ、「人と獣の棲み分け」というイメージである。

（委員）

- ・昔は人と獣の適切な関係が成り立っていたのだが、今や獣がどんどん人のエリアに入ってきている。どう対応していくかを真剣に考えていかないといけない。ニホンザルにしても、今後どう管理していくか課題になってくる。

（事務局）

- ・ニホンザルはまず群れの実態の把握が課題ということで、今回の計画ではその把握に取り組んでいきたい。

（委員）

- ・ニホンザルの群れの実態の把握について、市町村や県で調査する、とあるが、結局どのような手法でやるかが課題である。
- ・ニホンザルの群れは、岡崎市や豊川市の調査結果にあるように、塊状に分布するのが普通であり、県の調査結果のようにまばらにはならない。実際は、もっと多くの群れがいると思う。
- ・モデル地区を設定し、そこで調査を実施するなど検討されたい。ニホンザルの群れの実態の把握は難しいが、しっかりとした調査を行えばそれなりに現状は把握できると思う。計画はよく記載できていると思うので、どう実施していくかを専門的に考えた方がよい。群れを調査したアンケート調査はどうやって実施したのか。

（事務局）

- ・狩猟者団体や市町村役場等あてにアンケート調査票を送付し、追加で聞き取り調査を実施したが、ニホンザルに特化した聞き方ができていない。アンケートの回収率の問題もあり、広く浅くの調査になってしまっている。

（委員）

- ・ニホンザルに特化した聞き取り内容でないと、群れの状況はわからない。問題意識を

もって調査をすべき。

(委員)

- ・愛知県は山が奥深くないので、ニホンザルのアンケート調査は可能であると思う。期間を決めて集落内でアンケート調査を実施する。調査票には、出没日時等を記載してもらおう。同じ時間に別のところで出れば別の群れであることがわかるので、そういうことから群れの分布状況を推定していく。

(委員)

- ・アンケート調査は旧額田町で一時やっていたが、実施することにより、ある程度群れの実態がわかってくると思う。

(事務局)

- ・調査を県でやると広く浅くになってしまうので、市町村がやることになると思う。

(委員)

- ・最初の実態把握の部分は県でやるべき。まず県で実態を把握してから、テレメトリ調査など詳細な部分を市町村で実施するという流れになると思う。

(事務局)

- ・ニホンジカ、イノシシは生息数での管理だが、ニホンザルは群れ管理なのでどこにいるか、実態をどこまで把握できるかがわからない。

(委員)

- ・集落に聞いていけば、その群れが30頭規模なのか100頭規模なのか、ある程度はわかってくると思う。

(委員)

- ・市町村任せにすると、調査時期や調査手法がばらばらになるので、最初は県で統一的な方法でニホンザルの実態を把握するべきである。

(2) 令和4年度市町村実施計画（ニホンジカ、イノシシ及びニホンザル）等について

(委員)

- ・豊川市のニホンザルの実施計画について、なぜ一部の群れの大半を捕獲し、少しだけ残すような内容なのか。群れごと全部捕獲すれば良いと思う。捕獲数を配分しているということか。

(事務局)

- ・農業被害や群れの規模に応じて、被害防止計画の捕獲目標値を割り当てたものである。

(委員)

- ・豊川市の群れは、昔からいたわけではなく、旧額田町から侵入してきたものである。昔はいなかったのだから、群れの存続を考える必要はない。

(事務局)

- ・豊川市の群れは加害レベルが3ということだが、環境省のガイドラインでは、加害レベル3の群れは、群れのサイズに応じて部分捕獲か選択捕獲ということになっている。状況によっては、全頭捕獲しても良いということか。

(委員)

- ・国道1号線から南の群れは全頭捕獲で良いと思う。最終的には豊川市が決めることでは

ある。

(事務局)

- ・県の計画案では、新たな地域の進出群は除去を検討するという記述もあるので、その旨豊川市に伝える。

(委員)

- ・捕獲だけではどうしようもないので、電気柵での防除を並行して実施する必要がある。
- ・捕獲と防除をどのように組み合わせてやっていくかが重要である。

(委員)

- ・ニホンジカの繁殖特性上、メスジカを捕獲すると個体数減少への効果が大きいので、メスジカの捕獲を誘導するような、少なくとも捕獲割合を6割にするなどの目標を設定したほうが良い。
- ・メスジカを選別して捕獲するのは実際のところ、なかなか難しいと思うが、鳥獣統計ではメスジカのほうが多く捕獲されている。メスジカの捕獲の重要性について、市町村に理解してもらうべき。市町村は現状としてどのくらい認識しているのか。

(事務局)

- ・近年、メスジカの捕獲割合は50～60%の間で推移しているが、さらにその割合を上げていくため、ニホンジカの計画概要版を活用する等して、メスジカの捕獲の重要性を市町村に伝えていきたい。

(委員)

- ・市町村実施計画の中でメスジカの捕獲目標を出させてはどうか。

(事務局)

- ・実際、どうやってメスジカの捕獲を増やすのか、そのやり方がないと難しい。ニホンジカの捕獲に係る補助金には県の上乗せがないと思うが、市町村で捕獲の単価を差別できるのか。

(野生イノシシ対策室)

- ・メスジカ捕獲の重要性は市町村も認識していると思う。ただし、性別を選別できないわなによる捕獲が多く実施されており、選別しての捕獲は難しいと思う。
- ・補助金単価の差別化は可能ではあると思うが、支払の際の確認作業が労力になると思う。

(事務局)

- ・狩猟者の意識はどうか。

(委員)

- ・雌雄の判別が、捕獲意識の変革には繋がることはないと思う。狩猟はわな、銃猟等様々で、銃猟ができる区域が限られる中で、メスジカを選別して捕獲するのは現実的ではない。

(3) 指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ、イノシシ）について

(委員)

- ・ニホンジカについて、指定管理鳥獣捕獲等事業を実施する地域で、例えば糞粒などの指標はとっているのか。具体的な指標をとってほしい。

(事務局)

- ・実施区域に限った調査はしていない。糞粒については、第二種特定鳥獣管理計画の策定のための調査を実施しており、その結果は参考にしている。

(委員)

- ・指標をとることを事業に含めて、委託してはどうか。
- ・イノシシは有効な指標がないので難しいかもしれないが、ニホンジカには糞粒がある。比較的狭い地域なのでカメラトラップも有効だと思う。
- ・大規模にやるのではなく、簡便な方法で実施できれば良い。

(事務局)

- ・ニホンジカの事業の実施場所は捕獲成果等を踏まえて少しずつ移動させているので、継続的にデータをとることが難しいと思う。
- ・実際の捕獲作業には地元の狩猟者等が従事するため、そのような調査は難しい。

(委員)

- ・そもそも認定鳥獣捕獲等事業者は資格が必要なのではないか。ただ捕獲するだけでなく、実際にできるようなやり方にして、指標をとってもらわなければならない。

(事務局)

- ・捕獲を委託する先で難しいのであれば、次年度の実施計画策定を委託している先での実施を検討してみる。

(委員)

- ・認定鳥獣捕獲等事業者は、簡単なモニタリングをできるようになるべきである。環境省では、もともとそういう制度設計だったと思う。
- ・指定管理鳥獣捕獲等事業の経費は、有害鳥獣捕獲に係る経費より多いので、猟友会の延長ではなく、将来的にそういうこともやってもらわないといけない。

(委員)

- ・現在は統計手法が主流になってきているが、実地調査で集めた指標のほうがわかりやすく、簡単に比較できるので、そのような情報を蓄積していくことが大事である。

(事務局)

- ・実際にどのような手法を実施できるのかどうか、検討していきたい。

(委員)

- ・簡便な手法で良いと思う。事業者のレベルアップを図っていくことが大事である。